

渡良瀬遊水地を見つめるようにして立つ田中正造像
＝栃木県栃木市



見て知って! ⑫

明治期の中ごろ、栃木県や群馬
県などを流れる渡良瀬川で魚が大
量死し、周辺の木々がかれてしま
いました。川の上流の足尾銅山(今

鉱毒被害訴えた田中正造

栃木県
栃木市

日本初の公害とたたかう

栃木県日光市)から出る有害な物質とけむりが原因でした。

1890(明治23)年の洪水で、有害な水が農地に流れ、広い地域で農作物に被害が発生。「足尾銅山鉱毒事件」と呼ばれる、日本初の公害事件となりました。

人生をかけてこの公害とたたかったのが地元選出の国会議員、田中正造。議会で何度も鉱毒事件を取り上げ、政府に対策をせよとしました。

しかし、正造や地元住民の願いはかなわず、対策は不十分のまま。経済力と軍事力の強化を目指した「富国強兵」のため、有力な鉱山の足尾銅山が必要だったからです。

正造は議員をやめ、1901年に明治天皇に公害を止めるよう、直接うったえる「直訴」をしよ

うとします。当時の天皇は神様のような存在で、勇気のある行動でした。直訴は失敗しますが、鉱毒事件は広く知られるようになりました。

政府は被害のひどかった谷中村(今の栃木県栃木市)をつぶして洪水を防ぐ遊水地を造ろうと計画、銅山の作業はやめさせませんでした。正造は谷中村に移り住み、最後まで反対を続けました。

足尾銅山は73(昭和48)年にやると閉山。有害ガスで川の上流は木々がかれ、はげ山に。緑を取りもどそうと今も植林活動が続きます。

栃木市の藤岡歴史民俗資料館前に遊水地を見つめるように正造の銅像が立ちます。一度失われた自然は簡単には元にもとらないことを銅像とはげ山が教えてくれます。

(文と写真・墨威宏)

【問1】明治時代の中ごろ、栃木県や群馬県などを流れる渡良瀬川で魚が大量死し、周辺の木々がかれてしまった原因は何でしょう。()をうめましょう。

川の上流の(**足尾銅山**)から出る(**有害**)な物質と(**けむり**)が原因。

【問2】1890(明治23)年に広い地域で農作物に被害が発生したのはなぜでしょう。

洪水で有害な水が農地に流れたため

【問3】人生をかけてこの公害とたたかったのは、誰でしょう。

田中正造

【問4】問3の人物の天皇への直訴は失敗しますが、結果的にどうなったのでしょうか。

鉱毒事件は広く知られるようになった

【考えてみよう】九州地方であった公害について調べてみよう。